

公開書簡：メコン河の環境保全に向けた提言

2016年3月14日

流域の人々の暮らしを支えてきたメコン河は、今、相次ぐ本流・支流のダム開発によって、その豊かな生態系を失おうとしている。私たち流域の住民と、この問題に関心を寄せる流域・国際 NGO、研究者の有志は、メコン河の持続的な環境保全に向けて各国政府・ドナー・流域の市民に提言を行う。

メコン河流域で暮らす約 6,000 万人のうち、約 8 割が農村部に住み、農業、漁業、水生生物や植物の採取で生活している。川と魚は人々に安価にタンパク質を供給する重要な食料である。魚は重要な収入源でもある。メコン河流域の捕獲漁業の漁獲高は、小売価格で、42 億～76 億ドルと推定され、季節的な労働や副業をふくめると 4,000 万の人がメコン河水系で漁業に従事しているという。

今、このメコン河は重大な危機に瀕している。上流の中国で 6 つの巨大な水力発電ダムが運転を始めている。ここ 20 年間で河口のメコンデルタに届く土砂は半分になってしまった。ラオスの 6 つのメコン河支流、タイのムンと支流のチー川、カンボジアのセコン、スレポック、セサン、この全ての川に、ダムがある。更にラオスではメコン河の本流で、サイヤブリダムとドンサホンダムの建設が進んでいる。特にドンサホンダムとセサン川に作られる下流セサン 2 ダムは、更に魚の資源量に壊滅的な打撃を与える、と科学者は予想している。

メコンの肥沃な泥は下流に流れて行かなければ、ダムの貯水池に溜まり水質を悪化させる。雨季の増水をきっかけに産卵のする多くの魚は、ダムからの放水で産卵のタイミングを見失う。水棲の植物や昆虫は魚のえさとして重要だが、ダムによって水位や水質が変ることで激減している。魚は住処と食料を奪われ続けている。人も大きな影響を受けている。川沿いの村で代々続いてきた河岸や河口の農業が出来なくなり、漁業コミュニティは自給や販売のための魚が減り困窮し、場所によっては崩壊してしまった。この 30 年間に流域で建設されたダムにより、何が奪われたのかは、すでに流域住民が身を持って体感している。

各地の住民の声：

- ・ 川は生活に必要な水をもたらすだけでなく、食料の供給地である
- ・ ダムができてから魚が減った。魚の住処も減り漁業は困難になっている。また、川辺の植物も失われた
- ・ 川に由来する文化が失われつつあり、子供たちは川を敬う機会がない
- ・ 川を祈りの場とする伝統行事は、ダム開発と共に失われた
- ・ 魚は、命をつなぐ糧であるだけでなく、コミュニティを支える財産である
- ・ メコン河はその近くに住む人や農民だけのものではなく、みんなの利益になる共有の財産
- ・ 水、米、魚、自然由来の食料は、人の暮らしに欠かせない。特に地方のコミュニティにとって重要

生物多様性の重要性が認識されて久しいが、生物多様性を阻害するダム計画は、メコン河の下流域で本流に 10、支流には 100 か所以上の計画がある。そのほとんどが、発電を目的としている。

ある生物が絶滅してしまえば、それは人間の手で取り戻すことはできない。一方、電気は、風力や太陽光、その他様々な手段で作ることができる。だが、経済発展の名目で川を破壊することは常に認められ、一部の人にだけ投資による利益がもたらされる。そして、市民の多くは過剰な投資により高い電力の購入を強いられ、ダムができる地域の人たちにはほとんど恩恵がない。

私たち流域住民と、メコン河の暮らしを守りたい各国の市民は、まだ希望を捨てていない。私たちとその次世代のために、次のような提言をしたい。

流域各国政府へ

- ・ メコン河流域全体でのダム開発の累積影響を明らかにし、公開の場で将来に向けた議論を行い、政策に反映させること
- ・ メコン河本流でのダム開発、特にドンサホンダムと LS2 ダムの開発を見直すこと
- ・ 既に環境社会影響が出ているダムについて、被害を正當に補償し、環境と社会面での回復を図ること
- ・ 新規ドナーとなった新興国政府は、世界銀行やアジア開発銀行、先進国政府の援助の失敗に学び、厳しい環境社会配慮基準を適用してプロジェクトを見直すこと

ドナー国・国際機関へ

- ・ メコン河の流域管理を決める場となる MRC またはそれに変わる枠組みが、住民参加型で実現するよう流域各国に働きかけること
- ・ CO₂ の排出が少ないことだけを取り出し大型の水力発電ダムを支援すべきではない。また、広域をつなぐ電力網ではなく、分散型の新しい電源や電力網に支援や融資を行うこと
- ・ 今まで流域各国に支援したプロジェクトに起因する環境破壊から、自然とコミュニティが回復する事業に資金を回すこと
- ・ ドナー国の企業利益を追求する事業ではなく、地球環境や地域の安定に資する支援や融資をすること

流域で暮らす地域住民へ

- ・ 政府や開発機関の事業の影響で環境が劣化した場合、住民は協力して責任のある機関にその回復を求めてほしい
- ・ 一地域の短期的な利便性や経済的利益だけでなく、流域単位で環境や社会影響を考えた土地や河川の利用をしてほしい。例えば、爆薬等を使った非持続的漁業を控える、木材伐採等の過剰な資源利用を行わない、村の道路や水路の開発では環境配慮を行うなど、持続的な資源利用を目指すべきである
- ・ 在地の知恵をまとめ、発信してほしい。また、自然科学的な知識も学び、地域の知恵とバランスをとった開発を自ら考え、実行してほしい

メディア・研究者に

- ・ 研究者にはメコン河の自然に対して科学的知見を深め、その結果を社会に還元して欲し

い。また、メディアにはその結果を分かり易く市民に伝えてほしい

生物多様性の宝庫、メコン河は世界の全ての人にとって守るに値する価値のある川だ。この提言の実現に向けて、私たちはこれからもそれぞれの地域で働きかけを続けていく。多くの方たちが、私たちの声に耳を傾けてくれるよう願っている。

賛同団体：

Cambodia

3S Rivers Protection Network (3SPN)
Cambodia Indigenous Youth Association (CIYA)
Cambodian Community Development (CCD-Kratie)
Cambodian Youth Network (CYN)
Fisheries Action Coalition Team (FACT)
Jesuit Service-Cambodia
Khmer Youth Empire (KYE)
NAK AKPHIVATH SAHAKUM (NAS)
Save Vulnerable Cambodians (SVC)
Social and Environmental Protection Youth (SEPY)
The NGO Forum on Cambodia
Tonle Sap Lake Waterkeeper

Japan

Biodiversity Information Box
Friends of the Earth Japan
Fukuoka NGO forum on ADB
Japan Center for a Sustainable Environment and Society (JACSES)
Mekong Watch
Ramsar Network Japan

Korea

Busan Green Trust
Busan River Network
Daecheoncheon Network
Energy and Climate Policy Institute for Just Transition (ECPI)
Geumjeong Mountain Association
Institute for Environment and Community Development Studies
Korea Federation for Environmental Movement (KFEM)
Korea River Network
Life Web
Women's Environmental Coalition

Thailand

Assembly of the Poor, Pak Mun Dam affected people
EarthRights International
Srisaket Province's Association of Community Based Freshwater Fisheries, Northeast Thailand